



広報

こしがや

1月1日

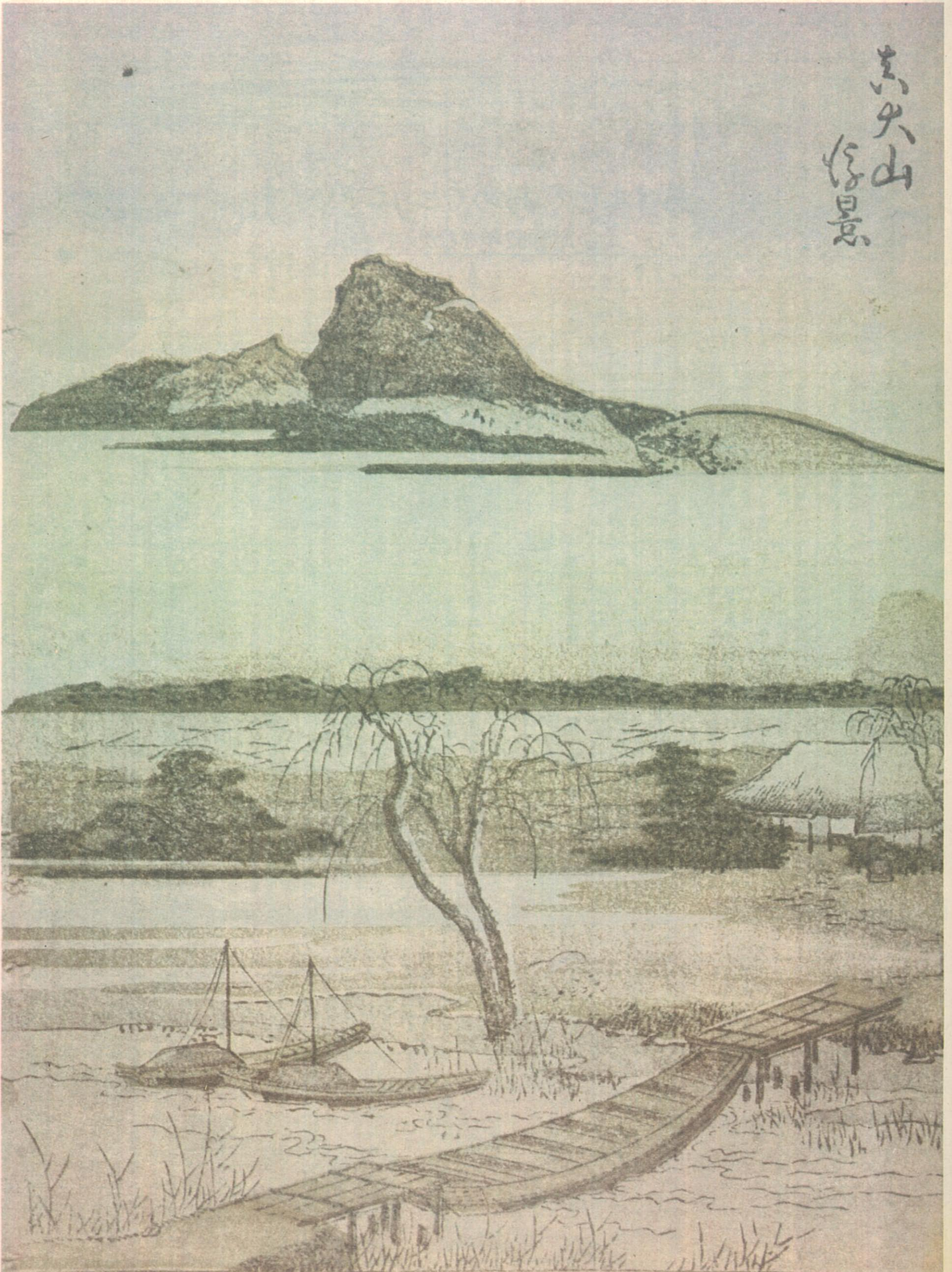
昭和52年(1977) No. 536

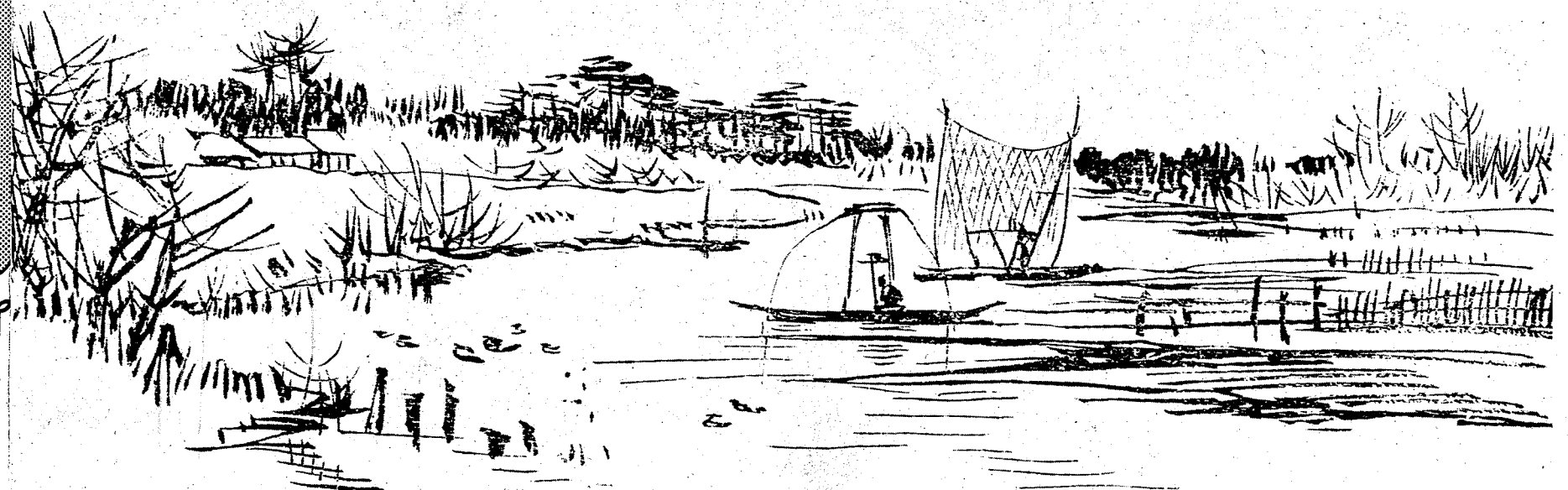
編集

越谷市役所企画部広報課

昭和32年8月5日第3種郵便物認可
毎月2回(1日、15日発行)

美大山
浮景





あけましておめでとうございます

昭和52年をむかえて



市民の皆さん、明けましておめでとうございます。

私は、昨年三月の定例市議会の施政方針で、「冬来りなば、春遠からじ」と申しますが、わが越谷市の春はまだ遠くにあります。」と、越谷市が現在置かれているきびしい状況を訴えました。

この言葉どおり、過ぎ去った昭和五十一年は、市民の永い悲願だった市立病院をオープンさせ、越谷市の歴史の一ページを飾りましたが、人口だけ急増を続ける、財政負担の一方自治体の力では、余りある、八十億円を超える資金を要した一大事業を、思い切った決断によって成し遂げただけに、市政に対するしわ寄せは大きく、その後の市政運営は、苦難と波乱に満ちた一年間であり、私にとっても、市政を担当して以来のきびしい試練の連続でありました。

私はこの苦難と試練に対し、愛と正義の確立した市政をめざす、私の基本姿勢をあくまで守り通し、どんな攻撃や誹謗、中傷、圧力にも屈せず、ただひたすら、市民のいのちとくらしを守り、心身障害児者などの恵まれない人々も、希望をもって生活できる、あたたかい市政と、将来の越谷市のまちづくりをめざして努力をして参りました。

真の住民自治確立のために全力

越谷市長 黒田重晴

その結果、心ある多数の市民の皆様にあたたかい激励と、市政全般にわたるご協力により、私の宿願でもあった、重度心身障害児のリハビリ施設「あけぼの学園」をはじめ、西方小、宮本小、栄進中といった懸案の学校の新設、粗大ゴミ破砕処理施設などを完成させ、間久里消防分署、大袋第二保育所、第二南中学校の新設や東越谷小、大袋東小、高等看護学院の増築などの建設事業を行っております。

また、全国で始めての、浄化槽の維持・管理条例の制定や、河川の浄化運動と市民のいのちの場づくり、鷺高区画整理事業の開始など、生活環境の整備を進ませることができました。希望をもって迎えた新年ですが、越谷市の厳しい冬の季節はまだ続きます。しかし、スポーツ・レクリエーション活動によって生れた、市民の連帯の輪と、生き生きとした活動力が、今、市内各地に、自然に、意識せずに、真の住民自治につらぬかれた新しい地域社会がどんどん芽生え、成長していることに感動し、私は、越谷市の未来に自信を深めています。

今年も市政の健全化につとめながら、教育、福祉を重点にした、市民のいのちとくらしを守る政治の確立のために懸命にがんばります。市民の皆さんの一層のご支援、ご協力をお願い致します。

年頭にあたって

越谷市議会議長 浅見真哉

市民の皆さん、明けましておめでとうございます。

ここに輝かしい新春を迎え、ますます皆様の限りなきご健勝と、ご清福をお祈り申し上げますとともに、日頃市政に対し何かとご熱心にご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

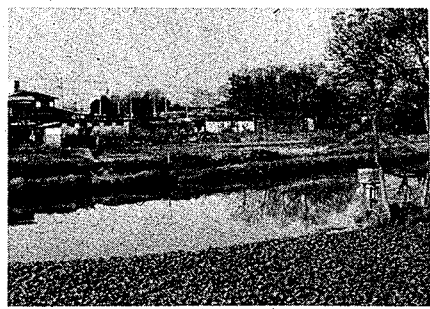
昨年は、経済の低迷による不況の影響を受けきびしい財政状況でありましたが、市民ひとしく熱望しておりました市立病院の開院をはじめ、市民生活向上のための諸事業遂行に取り組んでまいりました。

しかしまだまだ多くの市民が要望する行政需要に追いつかず、満足のいく年ではありませんでした。特に、都市施設整備のおくれと財政危機を一段と感じた年でもありました。

この難局を打開するため議会といたしましても、市民、理事者ともども一体となって政府に対し、これが対策と解決のため努力されるよう強く要望を重ねてきたところでありましたが、その実効は如実でなく人口急増都市特有の、全く予断を許さない財政危機にたちいたったところであります。かかる昨年の財政状況の見地からこのま

表紙の写真

表紙の絵は、「真大山後景」と題し、寛政十一年（一七九九年）に出版された俳諧本の中とびらに載せられたもので、もう一枚の絵「真大山春色」（左の写真）と対をなしています。木版刷りですが、後方には「北斎画」という署名があり、この絵も北斎の画ということがわかります。

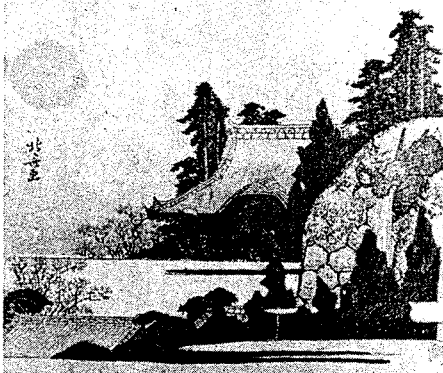


春日部市備後石井氏蔵

江戸時代から多くの人びとの信仰をあつめた真大山大聖寺（大相模の不動様）は、また景色のすぐれたところでもあり写真下は現在の不動橋付近。

左は、北斎の署名がある、「真大山春色」と題する、当時の大相模不動様を描いたもの。

真大山春色



越谷付近の春色 上段写真の説明

国立国会図書館蔵

上の絵は、明治期の洋画家中村不折の画いたもので、瓦葺根溜井付近のスケッチです。

「日本風景論」という本の巻末に掲載されたものですが、初版本にはこの絵はなく、第四版から掲載されています。おそらく明治三十年頃のスケッチと思われま

不折はしばしば東京近郊の名勝を訪れては、そのスケッチを新聞「日本」などにさし絵として載せており、この絵も、もと

は新聞のさし絵として画かれたものと思われま

また、この絵には贅言があります。これには「その風景のすばらしさは、あたかも錦絵を見るようであり、岸辺の店で、たけのこ、わらびで麦飯を喰い、一碗の抹茶をすするのもまたよし」といっています。

古くからこの地を訪れる文人墨客は多く、水辺の行楽地として越谷は著名だったのです。



1977 20年チビッコ大いに語る ぼくらは元気夢がある



スポーツのできる広場を
新戸 恵子(西方小六年)

わたしは、コレクションとしてめずらしい手をとくさん集めて大切にしています。体育が大好きです。ポートルは中学生になるとやらないので、小学生のうち、ぜひ学校のポートル大会で優勝したいと思っています。また市内には、サッカーやソフトポートル、ポートルなどやれる広場をたくさんつくりたいと思います。

塾は反対、体をきたえよう
佐々木久男(大沢小五年)

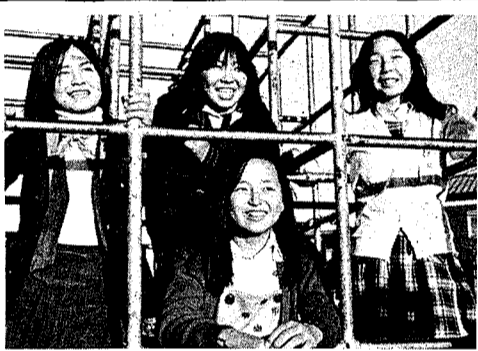
ぼくはものまねがとっても得意、みんなに聞かせてあげたいな……。最近塾に行っている人がたくさんいますが、ぼくは塾には反対です。また、住宅ばかりふえて空地が少なくなっています。住宅をつぶしても遊び場をつくりたい。そして子供のスポーツクラブや、スポーツレーニングセンターなどができればいいなあと思います。



佐々木くん(中央)とお友だち

遊具のない広場がほしい
新井久美子(桜井小五年)

小学校一年生のときに足立区から転校、それまではコンクリートに囲まれたまちの中でしたが、越谷市にきてからは田んぼや自然がたくさんあって毎日土いじりで洋服がドロドロ……。わたしは遊具は何もないからほんとうの広場がほしいと思います。そしてそこで力いっぱいはいねまわって遊んでみたいです。



河上さん(下)とお友だち



新井さん(中央)とお友だち



お料理するのが大好き……
クッキーをつくったり、お母さんのお手伝いをよくしています。今年が中学生なので、水泳は五〇メートルを泳げるようにしたいと思っています。このごろは車がふえ、わたしの友達が交通事故にあった時などはとても悲しくなります。みんなが交通規則を守り、安心して通れる道路、安心して遊べる公園をつくり、交通事故をなくしたいと思っています。

スポーツがいっぱいの公園を!
中野 明彦(蒲生南小六年)

越谷市はスポーツ・レクリエーション宣言都市、ぼくもスポーツは大好きです。少年野球チームに入り日曜日などに練習をしています。ぼくの夢は、緑の自然の中にある琵琶湖をヨットで一周することです。そして、越谷市内に野球やいろいろなスポーツをみんな楽しんでいくことができるような、大きな公園をつくることです。



北川崎にバスを
染谷 功(新方小五年)

大きなたいまつを持ってあかあかと行列をつくり、田んぼのあぜ道を通る昔ながらの行事の「虫おい」が大好きです。毎年お父さんと一緒にたいまつを持って参加するのを楽しみにしています。この地区にはバスが通っていないので、出かける時停留所まで遠いのでとても不便です。道路をもっと広くして、バスを通して便利にしたいです。



一人一人の心がけて川をきれいに
中山 正子(越谷小六年)

目の不自由な人のためにつけられた点字ブロックは大変よいと思うので、市役所まででなく、保健所など主要な所へも行かれるようにつけられたいと思います。また、人がふえるにしがって川が汚れ、とってもきれいで、一人一人が気をつけ、みんなが川を汚さないように心がけたら、川はもっときれいになるでしょう。



「スポーツ少年の家」の建設
林 実(増林小六年)

一月下旬に行われるサッカーの練習をしています。今年こそは絶対優勝をめざしてがんばるぞ! スポーツは何でも好きなので体育の時間にははりきっています。でも家庭科のお料理はチョッピリが……。ぼくは、スポーツやゲームができて、たくさんのお友達といっしょにすごせるような施設「少年の家」みたいなものがあればなと思います。

おもち

もちが日本人にいつごろから食べられるようになったのかはつきりしたことはわかりませんが、円満を象徴する望月の望との説があります。また古代の鏡になぞられて「かがみもち」というのも共に丸く収まる願いが込められているようです。そしてのしもちを焼いてふくらませるのも、角を取って丸くする意味が込められているといわれます。

**チビッコに
インタビュー**

昭和五十二年がスタートしました。ことしはみ年です。市内のチビッコたちは、毎日勉強に、スポーツにそして遊びにと楽しくすごしていることでしょう。今回は、五年生、六年生、み年のこどもたちにインタビュー、今年は何をこんなことをやってみたいか、こしがやをこんなふうにしてみたいか、など聞いてみました。

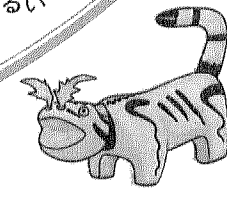
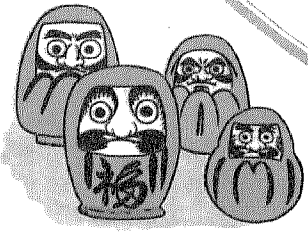
お友達といっしょに紹介したいと思います。

みんな健康で元気な子ばかりこれからの越谷をになうこのころの夢はどんな広がりか、ことごとし。みんな期待したいですね。

お正月

美とこころ

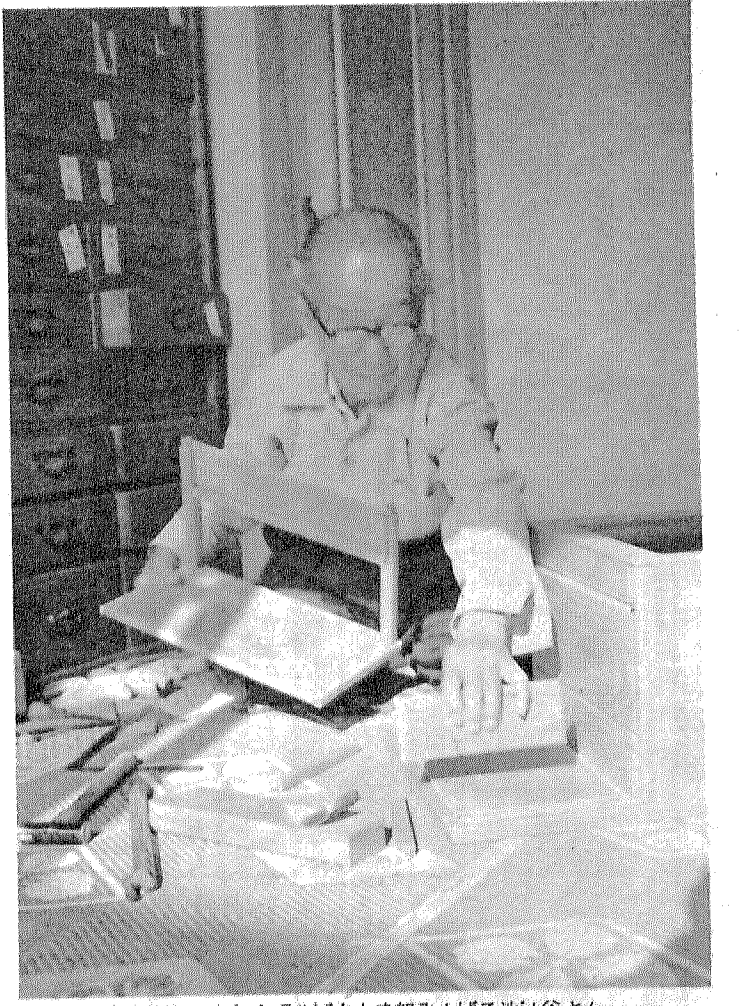
県下で6番目の20万都市となった越谷市は、水郷越谷して名を知られ、昔から土に生き、流れる川の水とともに人々の生活が育まれてきました。しかしながら首都東京の近郊に位置することから、開発の波は急激に押し寄せ、人口増加によっていろいろな問題が生じ、ここ10年来的越谷の変ほうは、たとえようがありません。そのような中で、伝統、芸術、あるいは園芸など、この道一筋にたずさわっている方がたくさんいます。この新年号では、これら伝統、芸術などの美とこころを訪ね、市民のみなさんにご紹介しましょう。



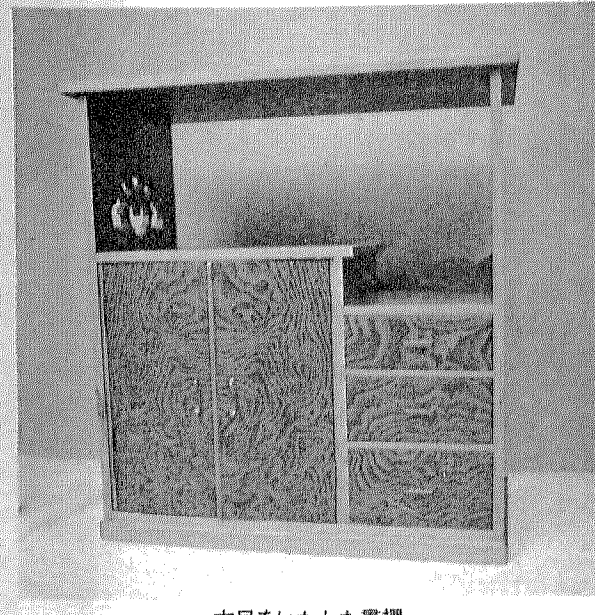
江戸指物

こころをひく匠の技

市内富永町二一九八 池ノ谷林蔵さん(八十歳)



目に見えないところに手間とお金をかける江戸の職人芸。その一つである指物は、はなやかな洋装に押しつぶされながらも細々と続いている。釘を使わずに木を組み立てる指物は、自分の狂いも許されない正確な目と腕だけが勝負であり、それは不思議とさえ思えるほどである。指物は広く全国でみられるが、漆塗りや蒔絵に華やかさを強めた京風に対して、木目を生かした漆地の美しさを見せ所とする江戸風は、むしろ現代の感覚に合っているようだ。しかし



木目をいかした書棚

りを感じることが出来る。十二歳の時東京の家具店に奉公して、仕事の苦勞をいやといふほど味わっている。一時は東京で七人八人の職人さんを使つて店を張ったが、戦後の混乱期に越谷に帰り、今は奥さんと二人暮らしで気ままに仕事を続けている。

「私は一生もつように丈夫に作り、材料も日本産からいいものを集めています。現在では、いいものを作っても使う方が少なくなりました」と林蔵さんは語り、また「仕事に対しては徹底してやる性格で、毎日二時間でも仕事をしなければ気がすまず、夜十二時でもちょっと品物を見ては磨いて、ますと奥さんは磨いてくれた。作品は今まで何万点作ったかわからないが、品物を見れば自分で作ったものは一目でわかるという。

池ノ谷さんの作品の特徴は、木目をいかした素材の使い方が巧みなこと、木目の模様をみれば、どんなデザインにするかすでに頭に浮かび、小さな木ぎれも後の仕事のために大切にしておく。だが、この細かい仕事を覚えるという後継者がいない淋しさはかくしうがないうようである。「今年もいい材料を集めて、いいものを作っていく」と語ってくれた。



面の手入れにも余念がない鈴木さん。

神楽師

今後は敬老会などにも神楽を

市内神明町二二六三 鈴木喜一さん(五十四歳)



福はくるを踊る神明町2丁目の神楽グループのみなさん。

お祭りやおかめ市などの行事には欠かせない神楽……。神明町に住む鈴木喜一さんは、農業とせんでい業を営みながら神楽を始め約二十一年。節が好きな父から、今でも東京都内でお祭りがあつたと頼まれ、泊り込みで行つたこともある。現在、神明町二丁目の神楽グループは全部で十二、三人だが、「若い人は動員が多いので、なかなか後継者がくりにむずかしいです」と鈴木さん。

つと力を入れてもらい、用水の整備をしてもらいたいですね」とも語ってくれた。また、正義さんは一人でドライブするのが好きで、余暇を利用しては洋らの産地に見学に行き、今年は市以外の所に土地を買って洋らの栽培をしてみたいという。

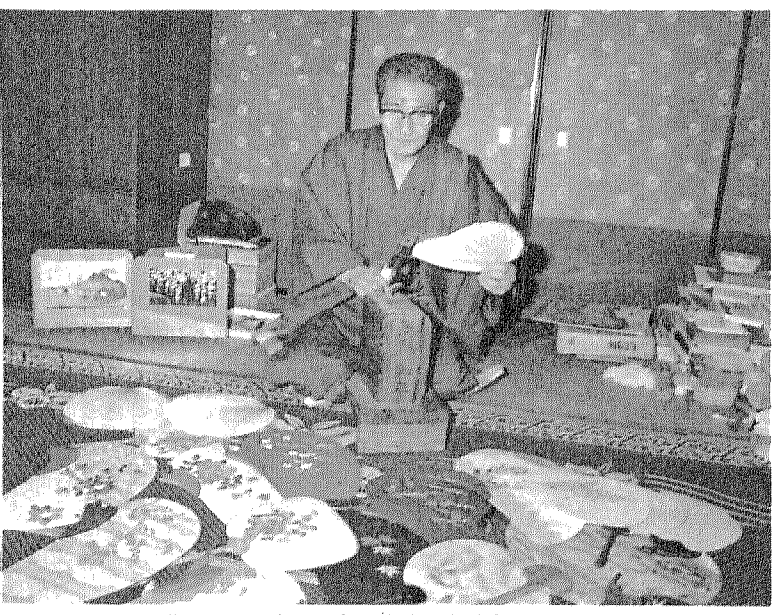
ひな人形頭づくり

市内赤山町六一九一六 小沢正男さん(五十七歳)



「一針に花数を増やすのがむずかしいです」と小船さん。

越谷・鳩ヶ谷線から少し入った住宅地に小沢正男さんの家がある。外からはひな人形の頭づくりをやっているように思えない。小沢さんは越谷で生まれ越谷で育ち、ひな人形の頭づくりを始めたのは戦後でこの道三十六年。現在は息子さんと一緒に仕事をしている。家族は奥さん、息子さん、娘さんの四人。市内では、ひな人形の頭づくりは二、三人位で、小沢さんは木目込み、五月もなど季節ごとに決めてやっている。今は仕事も順調で注文も多いが、最初の頃は苦労して作っていても、だんだんいれ返され



現代にマッチするよう工夫をこらす仁ノ平さん。

都うちわづくり

「都うちわ」にみる職人氣質

市内南越谷三二四二二三 仁ノ平静也さん(六十八歳)

「都うちわ」ひとすじに五十年の仁ノ平静也さん。関東ではただひとりの「都うちわ」の職人さんである。「都うちわ」の歴史は古く、平安朝の公家が使われたのが始まりという。一本一本のねいねいに並べられていく竹ヒゴには、自分のくるいもない。すべてが気を抜くことのできない手作業の

洋らん栽培
市内外町七五 小船正策さん(二十七歳)

出羽小学校から少し西の方に向うと左側に大きなガラス張りの温室が三つ、冬の日差しを浴びて反射している。温室内には一万鉢ものカタクリが整然と並べられて、広い温室内のあちこちに鮮やかな赤い色の花びらをつけている。小船正策さんは、農業を営むかたわら洋らんの栽培をしてい



「体の調子の良い時は顔もうまく書けます」と小沢さん。

みんなのひろば

あ け ま し て お め で

1	2	3	4	あ
5	6	7	8	け
9	10	11	12	ま
13	14	15	16	し
17	18	19	20	て
21	22	23	24	お
25	26	27	28	め
29	30	31	32	で

子どもクイズ

【第56回問題】

あいているとこに文字を一字づつ入れて、ことばにしてください。

ヒント

①夜ねるときつつかうもの
②除夜のかなをつくとこ
③〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
④まわるまわる、どっちが勝つか
⑤青空高くさすること
⑥お正月のあそびのひとつ
⑦人にしんせにしてもらった
⑧あひらがうと、〇〇をいいます
⑨おじいさんのこと
⑩キヤンプの時のおうち
⑪シンプラの〇〇はガラスです
【タテのカギ】
①埼玉県の島です
②日本ではいちばん高い山
③ウツをうつと〇〇〇〇まに舌をぬかれます
④女の子の好きなたぬきのかね
⑤てんてんてん〇〇の手がそれて

⑨早起きして、はつ〇〇をみよう
⑩元日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
⑪たつの中で〇〇〇〇を見ました
⑫船がとまっているところ
⑬そば、うどんは〇〇〇〇類です
⑭じしゃくつづきのもの
※応募方法※
一、かならず官製ハガキでお答えください。
二、住所、名まえ、学年、学校名をはっきり書いてください。
三、しりとりは1月15日消印のものまでとします。
四、送り先は、越谷市越谷4丁目2番1号、郵便番号343越谷市役所内広報課子どもクイズ係まで。
五、正解者10名のみなさんに賞品をおくりします。正解者多数の場合は抽せんです。
六、応募できる人は、市内の小学校、中学校に通学しているみなさんです。
七、当選者発表は2月15日号広報こがや子どもコーナーに掲載します。

子ども遊び

いままむかし

みなさんのお父さんお母さん子どももだつたら、お正月にはどんな遊びをしていましたか。今ではデパートなどお店に行けばたくさんのおもちゃがならんでいます。しかし、今昔も変わらないのは、男の子はたこ上げやこまあそび、女の子はたこ上げやこまあそび、羽根つきがバドミントンに変わって、やっこだごが操縦の頭とわたりたつた、その形や遊び方にも時代の流れがはびこり影をおとされてきています。昔はちりめんやりんすのあま布でつくったお手玉、竹でつくった竹馬など、どれもが身近

今の遊びでは、たこ上げ、羽根つき、バドミントン、トランプ、かるた、すごろくなどでしよう。今は昔とちがって、自然を利用した遊びがだいぶ少なくなっています。形は変わっていても昔の遊びはまだ残っています。みなさん、くふうでいろいろな遊びをつくり、楽しいお正月をすごしましょう。

子ども遊び

ととろ

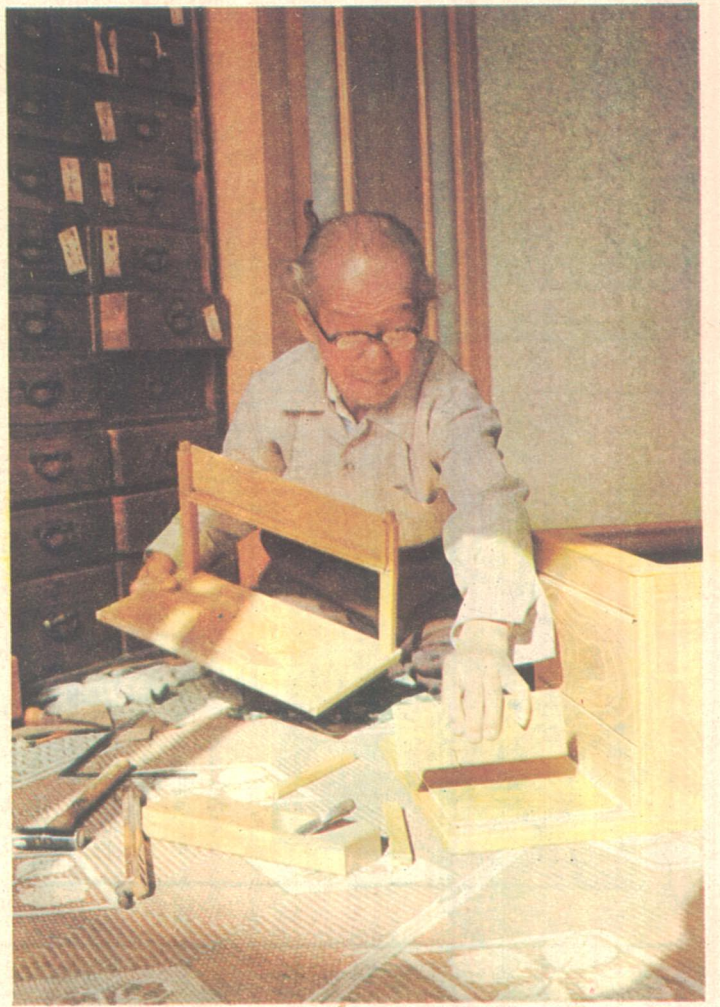
った越谷市は、水郷越谷として名を知られ、昔から土に生き、流れる川の水ままれてきました。しがながら首都東京の近郊に位置することから、開寄せ、人口増加によっていろいろな問題が生じ、ここ10年来の越谷とえようがありません。そのような中で、伝統、芸術、あるい、この道一筋にたずさわっている方がたくさんいます。こ号では、これら伝統、芸術などの美とところを訪ね、市民のみなさんにご紹介しましょう。



江戸指物

こころをひく匠の技

市内宮本町二一九八 池ノ谷林蔵さん(八十歳)



寸分の狂いもなく「ひばち」を組み上げる池ノ谷さん。

目に見えないところに手間とお金をかける江戸の職人芸。その一つである指物は、はなやかな洋家具に押されながらも細々と続いている。釘を使わずに木

を組み立てる指物は、寸分の狂いも許されない正直な目と腕だけが勝負であり、それは不思議とさえ思えるほどである。指物は広く全国でみられるが、漆塗りや蒔絵に豪華さを強調した京風に対して、木目を生かした素地の美しさを見せ所とする江戸風は、むしろ現代の感覚に合っているようだ。しかし

残念なことに、その技術を伝える職人はもうほとんどなく、東京で二、三人という。池ノ谷林蔵さんは、六十八年間和家具作りだけに専念してきた人だ。越谷に生れ現在も越谷に住む池ノ谷さんは、いわゆる江戸っ子ではないが、仕事に手間と時間を惜しまない気概ときっぶのよさに、江戸職人の名残

を感じとることができる。十二歳の時東京の家具店に奉公して、仕事の苦労をいやというほど味わっている。一時は東京で七、八人の職人さんを使っ店を張ったが、戦後の混乱期に越谷に帰り、今は奥さんと二人暮らしで気まままに仕事を続けている。

「私は一生もつように丈夫に作り、材料も日本全国からいいものを集めています。現在では、いいものを作っても使う方が少なくってしまつた」と林蔵さんは語り、また「仕事に対しては徹底してやる性格で、毎日一、二時間でも仕事をしなれば気がすまず、夜十二時でもちよつと品物を見ては磨いています」と奥さんは語ってくれた。作品は今までに何万点作つたかわからないが、品物を見れば自分で作つたものは一目でわかるという。



木目をいかした書棚

連続である。「この仕事は熟練した技術と感覚だけが頼り、ほんとうに好きでなければできないですよ」と林蔵さんは言う。林蔵さんは、昔からの形にとらわれず、千鳥型、角型、三人の六人家族。「当時にくらべて開けましたね。近所の人たちも親切で、川の多い自然がいいですね」と、越谷の感想を話す。「豊かな心」と「ものごとくはすべてよく考える」を心構え



福はくるを踊る神明町2丁目の神楽グループのみなさん。

神楽師 今後は敬老会などにも神楽を

市内神明町二二六三 鈴木喜一さん(五十四歳)

お祭りやおかめ市などの行事には欠かせない神楽…。神明町に住む鈴木喜一さんは、農業とせんべい業を営みながら神楽を始め約二十年。笛が好きだった祖父から三代も神楽を受け継がれ、今までに東京都内でお祭りなどがあると頼まれ、泊り込みで行つたこともある。現在、神明町二丁目の神楽グループは全部で十二、三人だが「若い人は勤め人が多いので、なかなか後継者が足りず、少しは残念です」と鈴木さんは言う。

神楽をやる所は市内に五つあるが、舞台で踊るために健康には特に注意し、体調不調の際はグループ内で組みかえたりしている。昨年の十一月には浦和で



面の手入れにも余念がない鈴木さん。

あり、苗から花が咲くまでに五年ぐらかかるという。「越谷市も二〇万都市となりましたが、公民館の催しなどでの新住民とのコミュニケーションが好んで、余暇を利用しては洋の産地に見学に行き、今年

みんなのひろば

子ども
コーナー

子どもの遊び いまむかし

みなさんのお父さんやお母さんが子どもだったころ、お正月にはどんな遊びをしていたでしょう。今ではデパートなどお店に行けばたくさんのおもちゃがならんでいます。しかし、今も昔も変わらないのは、男の子はたこ上げやこまあそび、女の子はたこ上げやこまあそび、羽根つきがバドミントンに変わりましたが、その遊びの顔といったふうに、その形や遊び方も時代が流れてはいますが、昔の遊びはまだまだ残っています。みなさんのくふうでいろいろな遊びをつくり、楽しい正月をすごしましょう。

今の遊びでは、たこ上げ、羽根つき、バドミントン、トランプ、かるた、すごろくなどでしょう。今は昔とちがって、自然を利用した遊びがだいぶ少なくなつていますが、形は変わつても昔の遊びはまだまだ残っています。みなさんのくふうでいろいろな遊びをつくり、楽しい正月をすごしましょう。



子ども
コーナー

美とこころ

県下で6番目の20万都市となった越谷市は、水郷越谷として名を知られ、昔とともに人々の生活が育まれてきました。しかしながら首都東京の近郊発の波は急激に押し寄せ、人口増加によっていろいろな問題が生じ、その変ぼうは、たとえようがありません。そのような中で、伝統は園芸など、この道一筋にたずさわっている方がたくさん。新年号では、これら伝統、芸術などの美とこころを市民のみなさんにご紹介しましょう。



都うちわづくり

「都うちわ」にみる職人気質

市内南越谷三―四―二三

仁ノ平静也さん(六十八歳)

「都うちわ」ひとすじに五十年の仁ノ平静也さん。関東ではただひとりの「都うちわ」の職人さんである。「都うちわ」の歴史は古く、平安朝の公家が使われたのが始まりという。一本一本ていねいに並べられていく竹ヒゴには、寸分のくるいもない。すべてが気を抜くことのできない手作業の



現代にマッチするよう工夫をこらす仁ノ平さん。

連続である。「この仕事は熟練した技術と感だけが頼り、ほんとうに好きでなければできないですよ」と仁ノ平さんは言う。仁ノ平さんは、昔からの形にとられず、千鳥型、角型、三味線型のほかマーシャンパイ型と、現代にマッチするいろいろな工夫をこらしている。そして、これらの作品は近ごろまったくの芸術品となり、和室、洋室のどちらにも向くアクセサリーとして好評を得ている。昭和三十九年に越谷市に転入し、現在夫人に息子夫婦、孫二

人の六人家族。「当時にくらべて開けましたね。近所の人たちが親切で、川の多い自然がいいですね」と、越谷の感想を話す。「豊かな心」と「ものごとはすべてよく考える」を心構えにしている仁ノ平さんの表情はじつにさわやかで明るい。来年の抱負はとずねると、つくりかけのうちの骨組みを手に、「これからも納得のいくものを一本でも多くつくりたい」と、いかにも職人気質らしい言葉が返ってきた。



「一鉢に花数を増やすのがむずかしいです」と小船さん。

洋らん栽培

市以外の土地での栽培を夢みて

市内左町七―七五

小船正策さん(二十七歳)

出羽小学校から少し西の方に向うと左側に大きなガラス張りの温室が三つ、冬の日光を浴びて反射している。温室内には一万鉢ものカタレアが整然と並べられ、広い温室内のあちこちに鮮やかなむらさき色の花びらをつけている。

小船正策さんは、農業を営むかたわら洋らんの栽培をしてい

る。家族は祖父母と父母、奥さんと子どもあわせて八人。栽培は正策さん一人であるが、時々奥さんも手伝ってくれるという。洋らんを始めた動機は「都内のデパートで展覧会を見てから、鉢ものが伸びるのでないか」と思いついて」と語ってくれた。洋らんにはカタレア、シンピジュームなど約一三〇種類も、

ひな人形頭づくり

市内赤山町六―九―一六

小沢正男さん(五十七歳)

越谷・鳩ヶ谷線から少し入った住宅地に小沢正男さんの家がある。外からはひな人形の頭づくりをやっているようには思えない。小沢さんは越谷で生れ越谷で育ち、ひな人形の頭づくりを始めたのは終戦後でこの道三十六年。現在は息子さんと一緒に仕事をしている。家族は奥さん、息子さん、娘さんの四人。

市内では、ひな人形の頭づくりは二―三人位で、小沢さんは木目込み、五月ものなど季節ごとに決めてやっている。今は仕事も順調で注文も多いが、最初の頃は苦労して作って戻って来ても、だめだといわれ返され

たこともあったという。また、体の好・不調によっても顔の書き方が違ってくるので、健康には特に注意している。越谷市については、「人口が二〇万人を超え、人口が増える」と人情が薄れてゆき、東京と同じようになるみたいです。また広報などでPRしている事業をみんな協力して実行してもらいたいですね。それに早く越谷駅西口が出来ればと思います」と語ってくれ、今年の抱負としては特になが、今の仕事は順調にいかば毎年より良いものをつくるよう心がけています」とも語ってくれた。

「体の調子の良い時は顔もうまく書けます」と小沢さん。



「体の調子の良い時は顔もうまく書けます」と小沢さん。

は特に注意し、体調不調の時はグループ内で組みかえたりしている。昨年の十一月には浦和で



面の手入れにも余

みんなのひろば

①	②	③	④ あ
⑤	⑥	⑦	け
⑧	⑨	⑩ ま	
⑪	⑫ し	⑬	
⑭	⑮ て	⑯	
⑰	⑱ お	⑲	
⑳	㉑ め	㉒	とう
㉓	㉔	㉕	で

あいているところに文字を一字づつ入れて、ことばにしてください。

ヒント▽

【ヨコのかぎ】

- ①夜ねるときにつかうもの
- ②除夜のかねをつくところ
- ③〇〇〇〇ほん、あいこでしよ
- ④まるまるまる、どっちが勝つか?
- ⑤青空高くさえずることり
- ⑥お正月のかざりのひとつです
- ⑦人にしんせつにしてみたら、ありがたうと、〇〇をいいます
- ⑧おじいさんのことです
- ⑨キャンプの時のおうち
- ⑩シンデレラの〇〇はガラスです

【タテのかぎ】

- ①埼玉県の鳥です
- ②日本でいちばん高い山
- ③ウソをつくとき〇〇〇さまに舌をぬかれるぞ!
- ④女の子の好きなたべものかな?

⑧でんてんてん〇〇の手がそれて

※応募方法※

- 一、かならず官製ハガキでお答えください。
- 二、住所、名まえ、学年、学校名をはっきり書いてください。
- 三、しめきりは1月15日消印のものまでとします。
- 四、送り先は、越谷市越谷4丁目2番1号、郵便番号343 越谷市役所内広報課こどもクイズ係まで。
- 五、正解者10名のみなさんに賞品をおくりします。正解者多数の場合は抽せんです。
- 六、応募のできる人は、市内の小学校、中学校に通学しているみなさんです。
- 七、当選者発表は2月15日号広報こしがやこどもコーナーに掲載します。

こどもクイズ

(第56回問題)

あいているところに文字を一字づつ入れて、ことばにしてください。

ヒント▽

【ヨコのかぎ】

- ①夜ねるときにつかうもの
- ②除夜のかねをつくところ
- ③〇〇〇〇ほん、あいこでしよ
- ④まるまるまる、どっちが勝つか?
- ⑤青空高くさえずることり
- ⑥お正月のかざりのひとつです
- ⑦人にしんせつにしてみたら、ありがたうと、〇〇をいいます
- ⑧おじいさんのことです
- ⑨キャンプの時のおうち
- ⑩シンデレラの〇〇はガラスです

【タテのかぎ】

- ①埼玉県の鳥です
- ②日本でいちばん高い山
- ③ウソをつくとき〇〇〇さまに舌をぬかれるぞ!
- ④女の子の好きなたべものかな?

⑧でんてんてん〇〇の手がそれて

※応募方法※

- 一、かならず官製ハガキでお答えください。
- 二、住所、名まえ、学年、学校名をはっきり書いてください。
- 三、しめきりは1月15日消印のものまでとします。
- 四、送り先は、越谷市越谷4丁目2番1号、郵便番号343 越谷市役所内広報課こどもクイズ係まで。
- 五、正解者10名のみなさんに賞品をおくりします。正解者多数の場合は抽せんです。
- 六、応募のできる人は、市内の小学校、中学校に通学しているみなさんです。
- 七、当選者発表は2月15日号広報こしがやこどもコーナーに掲載します。





燃えないごみの収集日

1月(17~31日)の燃えないごみの収集を次の日程のとおり行います。(清掃課)

Table with 3 columns: とき (Date), とこ (Location), ろ (Details). Lists collection dates for various wards like 東小林, 宮本町, etc.

※ごみは燃えるもの、燃えないものを分別し、必ず決められた日の朝8時までに丈夫な袋に入れて出してください。

施設めぐりの参加者募集 (Facility tour participant recruitment) with details on dates, locations, and contact info.

愛の献血を (Love donation of blood) with dates for blood donation events and contact information.

市編年誌 (City Yearbook) 199

オビシヤ年代記の偉容 (Obishya era chronicle highlights)

ヨリハ隔月... 春ハ草木上萌... 本年ハ信仰心ノ強キ故ニ...



写真は北川崎のオビシヤ祭り

成人式に参加しよう (Participate in the Coming of Age Ceremony) 1月15日 成人の日



*** 新たな人生の門出 ***

はちになったあなたを祝い、また新たな人生の門出に希望と生きがいを感じる機会として、次のとおり成人式を行います。

会場案内一覧表 (Venue Guide Table)

Table with columns: 会場 (Venue), 該当する住所 (Applicable addresses), 連絡先 (Contact info). Lists venues like 立川第一体育館, 増林公民館, etc.



1月10日から2月6日まで市福祉会館で 保育所(園)の入所受け付け (Nursery school enrollment)

入所できる年齢資格は、52年4月1日現在満3歳から就学前までの乳幼児です。

入所できる乳幼児は、母親が日中外出している場合にその乳幼児の保育ができます。

保育所(園)入所申請受付日程 (Nursery school enrollment application schedule)

Table with columns: 保育所名 (Nursery school name), 保育所の場所 (Location), 入所予定児童数 (Enrollment capacity), 受付日 (Application date).

※入所できる児童数は若干の変更がありますので、あらかじめご了承ください。

おしらせのページ (Notice page)

Notice page containing multiple sections: 労働問題を (Labor issues), 人権(法律)相談所 (Human rights/legal consultation), 若妻学級の (Young wives class), 学校給食用学食納入業者の (School lunch contractor), 労働問題を (Labor issues), 労働問題を (Labor issues).

空だき注意 (Warning about gas stoves) with an illustration of a gas stove and safety instructions.



'77
昭和52年

市政カレンダー

(日曜日は赤、祝祭日は○)



1 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

1

睦
月



1日 元旦 元旦マラソン大会
 4日 ご用始め
 7～9日 スキー教室
 8日 小中学校始業式
 10日～2月6日 保育所(園)の入所受付(保育課)
 15日 成人の日 成人式
 26日 文化財防火デー

◀越谷市役所

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

7

文
月

上旬 プール開き
 // 参議院議員通常選挙
 15日 下間久里のしし舞い
 24日 新方地区の虫追い



◀下間久里のしし舞い

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

2

如
月

11日 建国記念日
 16日～3月15日 所得税、事業税、市県民税の申告受付
 28日～3月13日 春の全国火災予防運動



◀北越谷浄光寺の梅

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8

葉
月



◀市内産直野菜の「朝市」



◀市内産直野菜の「朝市」

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ⑳ 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

3

弥
生



1～20日 固定資産課税台帳の縦覧(資産税課)
 上旬 3月定例市議会
 21日 春分の日
 下旬 小中学校卒業式

◀天然記念物「しらこぼと」

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 ⑳ 24 25 26 27 28 29 30

9

長
月

1日 防災の日
 4日 大相模不動尊大祭
 上旬 9月定例市議会
 15日 敬老の日
 中旬 敬老会
 23日 秋分の日
 下旬 交通安全市民まつり
 // 越ヶ谷秋まつり



◀越ヶ谷秋まつり

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

4

卯
月

上旬 葛西用水に水が入る
 8日 小中学校入学式
 25日～5月10日 藤まつり(越ヶ谷久伊豆神社)
 29日 天皇誕生日



◀元荒川土手の桜並木(北越谷)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⑩ 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

10

神
無
月



1日 料理教室の秋季会員募集(福祉会館)
 10日 体育の日
 29日～11月9日 読書週間
 下旬 消費生活展
 // 市民文化祭11月上旬まで

◀保育所の運動会

1 2 ③ 4 ⑤ 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

5

皐
月



上旬 葛西用水に稚魚放流
 3日 憲法記念日
 5日 子どもの日



◀越ヶ谷久伊豆神社の藤まつり

1 2 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 ⑳ 24 25 26 27 28 29 30

11

霜
月

上旬 越谷菊花大会
 3日 文化の日 市民体育祭
 15日 七五三
 23日 勤労感謝の日
 26日～12月2日 秋の全国火災予防運動
 下旬 越谷市商工物産展



◀越谷菊花大会(東越谷東福寺)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

6

水
無
月

1～7日 水道週間
 上旬 6月定例市議会
 // さつき展示会
 // 各種スポーツ教室開講
 // 消費者教室開講
 中旬 国保海・山の家の利用申し込み受付(保険年金課)



◀葛西用水

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

12

師
走



1～31日 歳末たすけあい運動
 3日 おかめ市(大沢香取神社)
 上旬 12月定例市議会
 // 越谷市農業祭
 // 市内一周駅伝大会
 15日 縁起市(越ヶ谷久伊豆神社)
 28日 ご用納め

◀大沢香取神社のおかめ市